CLINICAL FRAILTY SCALE - JAPANESE

臨床虚弱尺度

1	2	3	4	5	6	7	8	9
非常に健常である	**健常**	**健康管理されている**	**ごく軽度の虚弱**	**軽度の虚弱**	**中等度の虚弱**	**重度の虚弱**	**非常に重度の虚弱**	**人生の最終段階**
頑健、活動的、精力的、意欲的な人々である。これらの人々は通常、定期的に運動を行っている。同年代の中では、最も健常である。	活動性の疾患の症状はないものの、カテゴリー1ほど健常ではない。季節等によっては運動をしたり非常に活発だったりする。	時に症状を訴えることがあっても、医学的な問題はよく管理されている。日常生活での歩行以上の運動を普段は行わない。	自立からの移行の初期段階である。日常生活で介護は必要ないが、症状により活動性が制限される。よく「動作が鈍くなった」とか、日中から疲れていると訴える。	これらの人々は、動作が明らかに鈍くなり、高度なIADL（手段的日常生活動）（金銭管理、交通機関の利用、重い家事）では介助が必要となる。軽度の虚弱のために、買い物や1人で外出すること、食事の準備、服薬管理が徐々に障害され、軽い家事もできなくなり始めるのが特徴である。	屋外でのすべての活動や家事では介護が必要である。屋内でも階段で問題が生じ、入浴では介護が必要である。着替えにもわずかな介助（声掛け、見守り）が必要となることがある。	どのような原因であれ（身体的あるいは知的な）、身の回りのケアについて完全に要介護状態である。そのような状態であっても、状態は安定しており（6カ月以内で）死亡するリスクは高くない。	完全に要介議状態であり、人生の最終段階が近づいている。典型的には、軽度な疾患からでさえ回復できない可能性がある。	死期が近づいている。高度の虚弱に見えなくても、余命が6カ月未満であればこのカテゴリーに入る（人生の最終段階にあっても多くの人は死の間際まで運動ができる）。

認知症のある人々の虚弱のスコア化

虚弱の程度は、認知症の程度に対応する。

直近の出来事そのものは記憶しているが、出来事の詳細を忘れていること、同じ質問、同じ話を繰り返すこと、社会から引きこもることが軽度の認知症の一般的な症状である。

中等度の認知症では、過去の生活上の出来事をよく記憶しているようにみえるにもかかわらず、短期記憶は非常に低下している。

促せば、自分のことはできる。

高度の認知症では、援助なしで自分のことができない。

非常に高度の認知症では、しばしば寝たきりとなる。多くがほとんど発語もなくなる。

Clinical Frailty Scale © 2005-2020 Rockwood, Version 2.0 (JA).
All rights reserved. For permission: www.geriatricmedicineresearch.ca

Translated with permission to Japanese by the Japan Geriatrics Society, Tokyo, 2021.

Rockwood K et al. A global clinical measure of fitness and frailty in elderly people. CMAJ 2005:173;489-495.

DALHOUSIE UNIVERSITY